

提言施策名	吉川市での非認知能力を考える 提言研究員 靄 司
-------	-----------------------------

上記提言の要旨

私は平成27年4月に吉川市にて、NPO法人あおいはるを立ち上げました。法人の理念である「誰もが地域で笑顔の中働き、暮らしていける」の実現のためには何が必要なのかを考え、必要な支援を創造し、実践してきました。その中で、地域に参加し地域で生きるというオリジナルの社会モデルである「地参地生」を考え実践してきました。具体的な活動としては、・野菜を育て販売する・地域のアンテナショップとしての役割・誰もが繋がるために、などの活動に取り組んできました。

障がいのある人が地域に出て、『共に生きる』という価値ある社会モデルを作るには、障がい福祉の分野での知識を持ちながらも、社会起業家としての意識も同時にもっていないといけないと思っています。その人材が地域で活躍する社会になった時、障がいのある方にとどまらず、様々な生きにくさを抱えた人達が輝ける社会になるのではないかと考えました。

その様な思いを持ちながら、現状の課題として優先順位が高い問題は、障がい福祉の職場における人材不足です。国は、「より地域に福祉を」という考え方を推し進めています。その為には、障がい福祉で働く人材が多く必要です。NPO法人あおいはるも、地域に根差した福祉を目指し活動をしています。しかしながら、求人募集をしても人材不足が慢性的に起きており、有料の求人サイトに約一年取り組んできましたが、面接に来てくれた人は、1名のみ。（契約に至ったケースはない。）そのほかの手立てを2年間取り組んできましたが、あまり効果は見られていません。少ない働き手で、地域福祉を効果的に進めるためには、やはり、非認知能力を持つ人材が必要なのだと思います。

そして非認知能力を持てる人材が増えることで、社会に対しての意識が変わり、現状の地域に対して高いモチベーションを持った人材が、福祉の職場の入り口に立てるのではな

いかと考えています。

非認知能力を持つ人材が地域に増えることが、市の活力となることは、想像が出来ます。しかし、そこに生きにくさを抱えた人も巻き込める「価値ある社会モデル」を作るには、生きにくさを抱えることが多い人を対象として働いている障がい福祉の仕事をしている人が先頭に立ち学びを進めることが必要なのではないかと。そして、人とかかわる現場にいる人にこそ、今ある価値から創造した社会を作りリーダーシップが必要です。そのような人材にこそ非認知能力が必要なのです。

非認知能力を持っていることを実感して福祉の現場で働いている人は多くありません。しかし、現場での実践においては、非認知能力がなければ太刀打ちできないことも多く、意識しない状態でありながら、非認知能力を発揮している人が多いのではないかと考えられます。

そこで、多くの方が非認知能力を上げることができるよう、「非認知能力を養う指導方法」について指導する方や障がいに関わる方を中心に地域の方も学べる講座の実施を提言します。これにより、仕事をする人が非認知能力の効果的な指導力を身に付け、地域福祉を変えていく役割を持たせ、価値ある社会モデルの実現を目指します。

人に直接かかわる仕事をしている人たちが、非認知能力を持って人とかかわることができたなら、「価値ある社会モデル」を進めることができます。また、吉川市の福祉を進める上で、価値ある取り組みが、市民の方々に受け入れられ、障がい福祉の仕事への責任、意味を見出し魅力ある働き場であることを多くの人に知ってもらうことができます。

今後、障害福祉への社会保障が予想されます。非認知能力を高めた地域で障がいを持つ人の生活を身近に感じて共に生きる。これにより吉川市民には障がい福祉をもう一つ上のステージに上がると思います。

非認知能力向上のための研修を市民が受けることが、これまで、私たちが取り組んできた「地参地生」を吉川市の中で効果的に浸透できる方法となります。そして、生きにくさを抱えた人を支える市民が増え、地域福祉が「価値ある社会モデル」となり、多くの理解者が、時に、障がいのある方を支え、時に、働き手として活躍することにつながると感じています。ぜひ、この提言が吉川市にとって意味のあるものになってもらいたいと願います。